

ほけんだより

2013年1月28日 No.14
春江小学校
校長 小林 勝人
養護教諭 小澤 弘美

注意!! インフルエンザが流行ってきました。!

冬の厳しい寒さが続いています。子どもたちは、冷たい風にも負けず、元気なあいさつをしながら登校しています。休み時間には、限られたスペースの中で遊びを考えながら過ごしている姿が見られます。

今週に入り、江戸川区内の小中学校全域でインフルエンザによる学級閉鎖が一気に増えてきました。本校でも、少しずつインフルエンザによる感染症が増え始め、今後の広がりが心配です。インフルエンザは、急に高熱になるため、朝、熱がない場合でも昼近くになると熱が上がり、早退する人が多くなっています。また、37℃前後の熱でもインフルエンザと診断されている児童もいます。朝の健康観察を十分行い、いつもと様子が違う場合は、無理をしないで、早めに休み、医療機関を受診するようにお願いいたします。また、早退の場合は、お迎えに来ていただくようになりますので、連絡が取れるようにしておいてくださると助かります。

よろしくお願いたします。



インフルエンザは感染症となり、出席停止です。

現在本校で流行のインフルエンザは、A型です。この時期、かぜや熱の症状が見られる場合は、インフルエンザを疑って、24時間以内に、必ず医師の診察を受けるようにしましょう。インフルエンザは、医師の治癒証明書を提出していただくことにより、出席停止扱いになります。(欠席にはなりません。) また、インフルエンザと分かったときには、早めに学校までご連絡をお願いいたします。咳や鼻水などの症状があるときは、必ずマスクをつけて登校するようご協力をお願いいたします。特に、休み明けは、体調をくずし、保健室に来室する人が増えています。休日の過ごし方に気をつけ、健康管理に留意させますようよろしくお願いいたします。

ひきつづき よほうたいさく すす
引き続き、インフルエンザの予防対策を進めましょう。



① 外から帰ったら、手洗い、うがいをしましょう。手洗い後のアルコール消毒は効果があります。



② 室内では、できるだけマスクをして感染予防に努めましょう。



③ 流行期は、人込みを避けましょう。



④ こまめに部屋の換気をしましょう。適度な加湿も心がけましょう。



⑤ 十分な栄養と睡眠をとりましょう。



⑥ 予防接種を受けましょう。今からでも有効です。



★「学校保健安全法施行規則の一部を改正する法令(平成24年文部科学省令第11号)」の施行によりインフルエンザの出席停止期間が変更になりました。

★新) 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過するまで。

お忘れなく！！

MR(麻しん・風しん)ワクチンの接種期限が近付いています！

江戸川保健所 健康部より、下記、予防接種のお便りが届きました。今年度が、麻疹対策強化の最終年度になります。接種期限が間近に迫っています。まだの方は、期限までに接種されることをお勧めいたします。

MR(麻しん・風しん)ワクチン 接種しましたか。

麻しん(はしか)は非常に感染力が強く、感染すると高熱と赤い発疹が特徴ですが、まれに急性脳炎を発症し、精神発達遅滞等の重篤な後遺症が残る、又は死に至ることもある感染症です。

流行を防ぐためには、95%以上の接種率が必要であると言われています。ぜひお子様の定期予防接種をお願いいたします。対象の方には接種票を送付してあります。まだ、接種が済んでない方は、指定医療機関で早めに接種をしてください。

(未接種者には、健康部より接種勧奨ハガキが送付されています。)



**MR2期～4期の接種期限
平成25年3月31日まで**



※江戸川区では24年度に限り、「麻しん」に罹患していない方で、1度もMR予防接種を行っていない場合等、定期予防接種年齢以外で2歳～22歳までの方は、無料でMRワクチンの予防接種を受けることが可能です。(最寄りの健康サポートセンターにて、予防接種票を発行します。母子手帳や身分証明書をお持ちください)

問合せ先 健康部健康サービス課健康サービス係まで

電話 (5661) 2473

【学校保健委員会開催のご案内】

是非、ご参加ください。

1. 開催日時 2月18日(月) 午後14時00分～15時30分
2. 場所 春江小 図書室
3. 内容 ○平成24年度 春江小児童の体力面、生活面における実態報告
○講演・協議会 「再発見！和食のすばらしさ」
講師 食育向上委員会代表 吉川直美先生(管理栄養士)



<講師紹介>

子どもの頃から「食べること」に興味があり、「食」の仕事を目指す。日本女子大大学院で食物栄養学を終了後、食品メーカー、店舗運営、短期大学講師などあらゆる角度から「食」の仕事・教育に携わる。仕事・教育の現場や息子を通して地域と直接コミュニケーションをとる中で、「食育」の大切さを痛感し、食育向上委員会を設立。「食べること」の楽しさを伝える活動を行う。

フードメディアデザイン代表として、フードコンサルティング業を営むかたわら、ハウス食品とのコラボレーションにより、食育イベントの企画運営を行う。